

みどり

midori

No.133



公益財団法人
かながわトラストみどり財団

SUMMER
2024



小網代の森オープン10周年
「大湿原とボードウオークの秘密」
都市と小網代に適応したイマドキのカワセミの暮らし

01 連載 親子で鳥日記①

「すずめの巣の中の羽」 東郷なりさ

今号から136号まで東郷なりさ先生が連載します。野鳥好きな親子(母娘)の観察記録を紹介いただきます。



02 小網代オープン 10周年

大湿原とボードウオークの秘密 岸由二

04 小網代インフォメーション

主な動植物 身ごろ暦と周辺マップ

06 都市と小網代に適応したイマドキのカワセミの暮らし

柳瀬博一

10 竹林の手入れと竹細工

11 森の素材を使って絵を描こう

12 2024年度 自然観察 & 森林ボランティア

15 事務局だより

17 小網代の森事業寄附キャンペーン

会員の皆さまへ

※転居先不明で返送されるケースが増えてます。

住所などの変更がありましたらご連絡ください。

※機関誌「ミドリ」は財団公式WEBサイト

(<https://ktm.or.jp>)で読むことができます。

発送停止をご希望の方は財団事務局までご連絡ください。

表紙の
写真



都市のカワセミ 柳瀬博一
→記事P6

翡翠色(ひすい色)

ヒスイ(翡翠)は宝石の一つで、様々な鉱物が集まったものであるため、有名な緑以外にも様々な色彩がありますが、漢字の「翡翠」はカワセミの羽を指します。勾玉などヒスイの利用は日本が世界最古といわれ、新潟県糸魚川姫川流域の産出などが有名ですが、その加工の歴史と産出さえも長年忘れ去れ、昭和になって改めて調査され考古学、地質学的大発見となりました。

かながわの未来に、今できること



公益財団法人

かながわトラストみどり財団

1985年に発足以来、神奈川のみどりの保全と創造に関する様々な活動を展開しています。約1万人の会員の支援や募金寄附、ボランティアの皆様の協力を受け、今ある自然環境を次の世代に引き継いでいけるよう取り組んでいます。

☎ 045-412-2525

📘 facebook.com/ktm.or.jp

✉ midori@ktm.or.jp

📷 kanagawa_trust

✂ @kanagawa_midori

会員 & 寄附募金のお知らせ

トラスト会員を募集しています。どなたでも会員になれます。ご支援ください!

普通会員(トラスト会員)

かながわのみどりを守り育てる運動を支える会員です。

		年会費
個人	大人	2,000円
	小学生500円、中・高校生1,000円	
家族	1家族	3,000円
法人/団体	1口	10,000円

トラスト緑地保全支援会員
(オプション・任意加入)

普通会員の方に任意の加入で特定の緑地を支援していただく会員です。

		年会費
個人/家族		3,000円
法人/団体	1口	10,000円

※5年分の会費を1回でお払いいただくと6年間会員になれます。

会員特典

●会員証

みどりのトラスト会員の証として会員証を発行します。



●機関誌「ミドリ」

財団の最新情報や県内外の自然、環境問題など盛りだくさんの内容です。



●優待施設の利用

会員証及び優待券によって、各地の指定施設を優待利用できます。トラスト運動に賛同していただいている施設です。



財団への会費や寄附は税額控除の対象になります。

現在の会員数 (2024年3月末現在)

	普通会員	緑地保全支援会員
個人会員	3,339人	462人
家族会員	5,470人	689人
法人・団体会員	354人	47人
特別・名誉会員	310人	
計	9,473人	1,198人

遺贈による寄附について

近年、遺言による寄附について関心が高まり、遺贈を受けた公益事業を推進しております。遺言の財産受取人として、公益財団法人かながわトラストみどり財団をご指定いただけます。

「かながわトラストみどり基金」への寄附状況

寄附累計額 (2024年3月末現在) 14億7,447万7,736円

寄附者名 (2024年1月~3月) ※敬称略、アイウエオ順

声ノ湖畔蛸川温泉 龍宮殿、イオンマーケット株式会社、株式会社伊藤園、大磯プリンスホテル、神奈川えびね会、株式会社神奈川保健事業社、株式会社環境管理センター、箱根仙石原プリンスホテル、箱根湯の花プリンスホテル、ザ・プリンス箱根声ノ湖

「かながわトラストみどり財団」への寄附(2024年1月~3月)

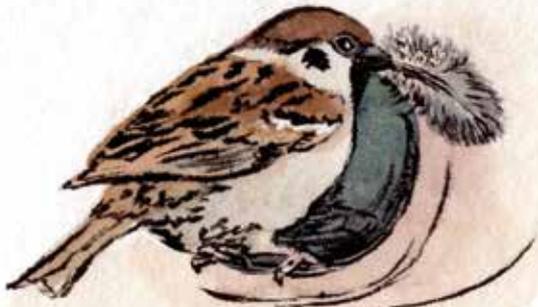
財団へ寄附をいただきましたので紹介します。誠にありがとうございました。

※敬称略、アイウエオ順

池谷 享子、池谷 善博、市田 壯一、小川 好美、奥村 和子、尾崎 俊朗、田中 勇、春日 千代子、方波見 淳、加藤 紀子、川瀬 豊、菊池 丈治、沓沢 康子、久保 幸子、小網代会館、小島 治、五味 聖二、齋藤 友佳理、佐藤 三郎、佐藤 美保、齋藤 吉之・和子、サンクトガーレン(有)、清水 紀彦、菅野 実、諏訪部 京子、田中 幹生、土屋 紀義、中原 優人、日産プリンス神奈川販売売組、新田 七恵、野本 健太郎、長谷川 美代子、原崎 崇、本間 光治、三好 烈子、山田 路子、山村 哲郎、山村 宣夫、山村 舞、山本 勝久、山本 絢子、余郷 志津子、横濱 英紀、(株)リビエラリゾート、和田 崇子、渡利 典子※掲載の承諾をいただいた皆さまをご紹介させていただいております。

親子で鳥日記

～スズメの巣の中の羽～



絵と文/東郷なりさ(絵本作家・イラストレーター)

2年前の5月、家のベランダに吊るしてあった湯たんぽにスズメが巣を作りはじめ、毎日窓の外でチュンチュン鳴いているのを楽しんでいた。ところが何が原因だったのか抱卵の途中で放棄してしまった。

しばらくして穴から巣を引っ張り出してみた。産座はシュロの樹皮の繊維を丸く編んで作られていて、鳥の羽が差し込まれていた。中には卵が3つあり、1つは割れた殻だった。それが放棄の原因だろうか。孵らなかつた卵を見るのは悲しい。産座の周り部分は隙間を埋めるようにたくさんのイネ科の草が詰め込まれていた。葉草として殺菌効果を狙っているのかヨモギが入っていたのも興味深かった。

当時4歳だった娘と一緒に巣に入っていた様々な鳥の羽を調べてみた。一番多かったのはハト類で44枚。お腹の羽が多い。ハト類は根元の羽糸がふわふわと密

生しているのが特徴的で、娘も識別できるようになった。次に多かったのが黒いカラス類の体羽で19枚、そしてムクドリの風切羽15枚。メジロとヒヨドリも入っていた。一番長かった羽は11.5cmあるドバトの風切羽だった。近所の住宅地で見つかるものを手当たり次第に集めてきたようだ。まわりは住宅街なのに、水鳥のカルガモらしい羽が2枚あって驚いた。

スズメは主に人工物の隙間や穴の中に巣を作るため、巣の中を目にすることはまずないので貴重な経験だった。

プロフィール

とうこう

東郷 なりさ

絵本作家、イラストレーター。ブログに「クイナ通りSoi17」
<https://narisatogo.blogspot.com/>

親子で鳥日記 ①

大湿原とボードウオークの秘密

NPO 法人小網代野外活動調整会議 代表理事 岸由二



10周年です

小網代開園は2014年7月20日。その年、森を訪ねた皆さんには、湿原をつらぬく真新しいボードウオークの記憶があるはずです。今回の小網代の森の紹介はそのボードウオークの裏話です。

保全の歴史

小網代は浦の川の流域です。当地が国土交通省の「近郊緑地保全法」で保全されたのは2005年。それに18年も先立つ1987年9月、当時慶應義塾大学の若手教員だった藤田裕幸、岸由二が「三戸・小網代開発計画」(1985年)への代案として出版した「小網代の森の未来への提言」の骨子が、しっかり生かされた決定でした。森は2011年「近郊緑地特別保護地区」に格上げされ、以後、神奈川県、三浦市、かながわトラストみどり財団、NPO法人小網代野外活動調整会議の4者による保全・管理・活用がすすみ、現在にいたっています。

開園準備の湿原づくり

整備開始は保全決定から4年後の2009年夏。かつて水田だった谷底は一面のササ藪に変貌していました。開園の予定は2014年。それまでに全域を湿原に変えたいというのが県の意向となり、当時、自治体や国の審議会に参加し、流域管理の実務にも関与していた筆者(岸)が代表をつとめるNPOに白羽の矢がたったのです。作業は順調に進み、2014年、1400mの散策路完成。冒頭紹介の一般開放前日にあたる19日、ボードウオークの完成を祝う「施設完成式典」が開催されています。

水系管理による湿原の維持

ササ原除去の経験者なら復活するササの強韌さが身に染みしています。谷底地でササ復活を抑え湿原を維持するには、地下水の管理が鍵なのです。引橋に発する浦



施設完成式典と併せて行われた音楽会(2014年7月19日)

の川は中央の谷を下り、北の谷、南の谷などの支流を合わせて流下する途上、各所で湿原創出に貢献しますが、下流大湿地の中央領域2ha規模を潤せるのは北の谷の集める雨水のみ。本流は縦浸食が深く、湿原維持に使えないのです。

ボードウオークは川の蓋

下流大湿原を歩くと、やなぎテラスから下手のボードウオークの不思議な屈曲に気付くかもしれません。この区間のボードウオークは、実は北の谷から雨水を誘導する水路の「蓋」でもあるのです。土の水路を日照にさらせば、植物の繁茂で蛇行がはじまり、縦浸食も進む。それを阻止するため、流路をボードウオークで覆い、日影にしたのです。流れは各所に堰があり、下方浸食を抑えると同時に流下水を左右に散らしてササ原化を阻止しています。繁茂する植物でボードウオーク下の水路をみる



のは困難ですが、湿原に分水される地点や、端末のえのきテラス周辺では、直に清浄な流れを見ることができるでしょう。

湿原の生物多様性

水環境の調整と関連して生物多様性創出も重要です。ガマ、アシ、オギ、クサヨシ、ハンゲショウなどの草本、ヤナギ類の保護、ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル、アズマヒキガエルの産卵地の確保、ゲンジボタル、サラサヤンマなどの生息地保護が課題とされてきました。各種外来植物の侵入やアライグマ、ガビチョウ、クリハラリスなどの攪乱も続いており一層の工夫が必要です。

ハマカンゾウの保全

やなぎテラスから300m。北の谷からの流路末端に位置するえのきテラス周辺には、ハマカンゾウ保護の課題があります。三浦半島の海岸域に自生する本種は開発や道路工事で激減中。小網代は湾奥に百株規模の群落がありました。2011年3月11日の東日本大震災時、

高潮で全滅状態になりました。幸いにも周辺で30株ほどが見つかり、小網代保全を支援してくださっていた東芝株式会社が横須賀の工場敷地にこれを移植。開園4年目の2018年、千株に増やして返還してくださったものが、いま5千株規模になっているのです。

2011年の高潮で小網代の海岸域は有害外来植物が急増し、花粉症被害も広がりました。湿原化の進む当地が、開園前にハマカンゾウの保護・育成地となったのは、本種が湿潤環境に強いことに加え、グランドカバー化を通して外来種を抑制する効果が期待されたからでした。ハマカンゾウ育成作業は、市民、企業、NPO、学校等の支援をうけて順調にすすんでいます。ハマカンゾウの開花は8月。盛夏、小網代大湿地を下れば、ボードウオーク下の小川に守られたハマカンゾウ大群落の、オレンジの花園に出会うことができます。

花さく小網代・花さく三浦

付録です。2027年3～9月、横浜で世界花博が開催されます。予想入場者は1500万人。三浦にも多数の観光客が訪れると期待されます。花博後半はハマカンゾウの花の季節。危機を生きのびた小網代の種子から育った株が、小網代の森だけでなく、三浦の街路、公園、学校等に広がって万博応援、という試みがあっても良いでしょう。小網代の森からそんな夢を発信する「花さく小網代・花さく三浦」プロジェクトを、NPO調整会議がすすめています。三浦市ベイシア2Fの小網代インフォメーションスペースで関連資料も配布しています。市民、企業、行政からの大きな支援、期待しております。

プロフィール

きし ゆうじ
岸 由二

慶応義塾大学名誉教授。専門は進化生態学。流域アプローチによる環境保全、都市再生、環境教育など。著書に柳瀬博一氏との共著「『奇跡の自然』の守りかた」ちくまプリマー新書など。



えのきテラス周辺に咲くハマカンゾウ



左上：ヤマユリ
左下：ハマカンゾウ
右：ハマダイコンとアオスジアゲハ

小網代の森周辺の会員優待施設

会員証の提示によって県内各施設約40施設を優待利用できます。小網代の森周辺には9施設があります。

小網代の森の

主な動植物 見ごろ暦

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
花											
			オオシマザクラ	〈やなぎテラス〉							
			ヤマツツジ	〈まんなが湿地〜やなぎテラス〉							
			ハマダイコンなど花畑	〈えのきテラス〜眺望テラス〉							
			フジ	〈まんなが湿地〜やなぎテラス〉							
			ヤムユリ	〈引橋入口など各所〉							
			ハマカンゾウの花畑	〈やなぎテラス〜えのきテラス〉							
			クサギ	〈えのきテラス〉							
			ヤブツバキ	〈眺望テラス〉							
			ハマカンゾウ								
葉											
			アスカイノデ	新緑(芽吹)			巨大化				
			オギ・ヨシ	新緑(芽吹)			青草原				銀色草原
			ハンゲショウ	白葉に変容			〈中央の谷〜やなぎテラス〉				
蟹											
			アカテガニ								〈全域の斜面の穴〉
			チゴガニのダンス								〈干潟〉
トンボ類											
			アサヒナカワトンボ								〈引橋〜やなぎテラス〉
			シオヤトンボ								〈引橋〜まんなが湿地〉
			シオカラトンボ								〈まんなが湿地〜えのきテラス〉
			オオシオカラトンボ								〈まんなが湿地〜えのきテラス〉
			ショウジョウトンボ								〈やなぎテラス〜えのきテラス〉
チョウ類											
			モンキアゲハ・ハラスアゲハ・ナガサキアゲハ・ハクロアゲハ・アオスジアゲハ								〈全域〉
			ジャコウアゲハ								〈全域〉
			キアゲハ・ナミアゲハ								〈全域〉
			ゴマダラチョウ								〈全域〉
			アカボシゴマダラチョウ								〈全域〉

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
鳥類											
森では、メジロやガビチョウなどに会え、ウグイスやカッコウのさえずりが聞こえます。寒くなるとカシラダカ、アオジ、モズが見られます。干潟付近では多くのシギやサギ、カワセミのほか、上空にはミサゴやオオタカ、トビなどの猛禽類を観察できます。											



①三浦パン屋 充麦
三浦市初声町入江54-2
☎046-854-5532
【営業時間】7:00～17:00売り切れ次第閉店 【定休日】火・水曜日

商品購入者に
クルトン
プレゼント



③mito café (ミトカフェ)
三浦市初声町三戸317-2
☎050-8885-2850
【営業時間】9:00～17:00
【定休日】火曜日

ミニソフト
クリーム
プレゼント



⑤シーボニアクラブ
ハウスレストラン
三浦市三崎町小網代1286
☎046-882-1216
【営業時間】平日/11:00～15:30
L.O. 土日祝/11:00～19:00L.O.
【定休日】月・火・水曜日 [レストラン]
季節により営業時間・定休日異なります

飲食代
10%割引



⑦小網代陶房
三浦市三崎町小網代158-3
☎046-882-6517
【営業時間】10:00～17:00
【定休日】不定休
※ご来店希望時にお問い合わせください。

購入金額、
作陶体験の
10%割引
(特価品を除く)



②マホロバ・マインズ三浦
三浦市南下浦町上宮田3231
☎046-889-8911
【大浴場】11:00～15:00【ウォーターパーク】9:00～20:00(最終入場受付19:30)臨時休業あり
※水着有料レンタルあり

大浴場・
ウォーターパーク
日帰り利用
20%割引!



④ひげ爺の栖
三浦市三崎町小網代2252-1
☎046-845-6260
【営業時間】11:00～16:00
【定休日】水・木曜日(祝日の場合翌日)

ランチメニュー注文で
ブレンドコーヒー1杯
プレゼント



⑥雑貨カフェ式部
三浦市三崎町小網代172
☎090-1509-2932
【営業期間】11:00～18:30
【定休日】月・金曜日

飲食代
10%割引



⑧miura pizza paradiso (ミウラピザパラダイソ)
三浦市三崎町小網代417
☎046-874-9198
【営業時間】11:00～15:00/17:00～21:00
【定休日】火・水曜日

コーヒー
1杯無料



⑨ミサキドーナツ (三崎本店)
三浦市三崎3-3-4
☎046-895-2410
【営業時間】平日/11:00～17:00
土・日曜日/11:00～18:00
【定休日】水曜日

コーヒー
1杯無料



都市と小網代に 適応した イマドキの カワセミの暮らし

NPO法人小網代野外活動調整会議理事 柳瀬 博一

カワセミ。みなさんよくご存知の鳥です。

全長18センチほどの小鳥ですが、背中から尾羽は目が覚めるような明るいコバルトブルー。羽根は光の加減によってサファイアのような青にもエメラルドのような碧にも輝き、頭部には深い緑に空色の宝石が散りばめられ、目の後ろとお腹はオレンジ色です。喉元は白く、体の半分くらいもある巨大なくちばしは艶やかな黒、短い足は鮮やかな赤。生粋のハンターで、獲物は水生生物。魚やエビやカニや水生昆虫を、空中から矢のように水中に飛び込み、生け捕りにします。

可愛くて、綺麗で、かっこいい。そのせいでしょう。メディア露出度も高い。鳥図鑑のカバーやコマースにも頻繁に登場します。

カラスやスズメにも負けにくいくらい知名度が高いカワセミですが、その割に「見たことがない」という人が多い鳥でもあります。というのも都市部では一度「幻の鳥」となってしまったからです。

戦後、東京や横浜など都市部を中心に水辺の水質が徹底的に悪くなりました。高度経済成長期の公害や下水が未処理だった結果、川や池や海辺は汚染され、生きものがいなくなりました。餌がないためにカワセミは魚やエビのいる綺麗な水辺を探して都心を去りました。1970年ごろには首

都圏では奥多摩の清流に行かなければ見られないほどの珍鳥となってしまいました。

それが2024年現在、カワセミは東京や横浜の都市部で頻繁に見かけるようになってきました。

公害対策が進み下水施設を完備したおかげで、都市河川の水質が改善したからですが、興味深いのはかつてと現在では、都市に暮らすカワセミの生態が大きく異なっています。東京都心のカワセミは都市でゼロリセットされた新しい野生に適応した、新しい暮らし方をしているのです。

2021年から2024年にかけて、私は東京の都市河川のカワセミの繁殖について、デジカメを片手に調査を行いました。山手線内側を含む5か所でカワセミのオスとメスが交尾を行い、巣作りをし、ひなを育てて、餌をやり、ひなが独立して巣立つまでを確認しました。

現在の東京では神田川や妙正寺川、石神井川や目黒川、渋谷川など都心を流れる川沿いでカワセミの繁殖を確認することができます。いずれも川幅数メートルからせいぜい15メートルほどの都市河川です。そこでカワセミは毎年子育てを行っている……と書くと、首を捻る方がいらっしゃるかもしれません。東京の都市河川でカワセミが巣作りなんかできないのでは、と。その通りです。従来の



カワセミが巣作りをする場所が東京の都市河川には存在しないのです。

カワセミは3月ごろからオスとメスがつかいになり、4月から5月にかけて巣をつくり、卵を孵し、交代で温めます。そして6月に入るあたりで、数羽のひなが巣から出て、親から魚やエビをもらいながら、2～3週間ほどで自分でもハンティングができるようになり、6月後半くらいに独立して巣立ちます。

ポイントはカワセミはどこに巣をつくるか。通常は川が削った土手に穴を1メートル近く掘り、穴の奥に卵を産んで、子育てをします。つまり、カワセミは巣穴を掘れる土手がないと繁殖できないのです。

東京の中小都市河川は、土手を垂直に数メートル掘り込んで、コンクリートで固めています。川底もコンクリート張りだったりします。カワセミが巣穴を掘れるような土手はほとんど存在しません。

1980年代、東京都心にカワセミが戻ってきたのは、コンクリート張りの都市河川ではありませんでした。水質も悪い上に巣穴を作る場所もなかったからです。カワセミは東京都心の各地に残された、都市河川の支流や源流部にあたる湧水地を備えた緑地、皇居や赤坂御所といった皇室の敷地

や白金の自然教育園を目指しました。綺麗な水辺があり、餌となる魚やエビも生き延びていたからです。

当時、東京のカワセミの研究と再繁殖に取り組んでいたのは、皇族時代からカワセミの研究を行っていた黒田清子さんや自然教育園の矢野亮さんでした。皇居や自然教育園では敷地の水辺近くに人工の土手をつくり、そこでカワセミは巣穴を作るようになりました。

それが2020年代になると、カワセミは一見コンクリートの側溝のような、無味乾燥に見える都市河川で子育てをしているのです。どうやって？

なんとコンクリート壁に無数に設けられた水抜き穴を利用していたのです。コンクリートで固められているのはあくまで表面だけで、水抜き穴の向こうは土手が隠れています。東京のカワセミは、いつの間にか、この水抜き穴に潜り込み、その奥の土手を削って巣穴をつくり、毎年産卵と子育てを行っているのです。私の観察した5か所全てで、カワセミはコンクリート壁の水抜き穴をマイホームにしていました。タワーマンションに暮らす若い家族のように、東京のカワセミは土手のない川で自分たちの生きる場所をしたたかに見つけていたのです。

都市のカワセミは食事内容もかつてとずいぶん異なっています。

高度経済成長期に公害と水質汚染で「死の川」になり、魚やエビ、昆虫などが絶滅状態になったため、東京の中小都市河川は水がきれいになったあとも水生生物の種類が非常に少ない。汚れに強いはずのフナやドジョウがほとんど見当たらず、オイカワやモツゴも滅多に見られません。

では、東京のカワセミは何を食べているのか？
実は外来種と海から遡上してきた生物でした。ある川では餌の9割以上が、中国由来のシナヌマエビで、残りはアメリカザリガニです。海に近い別の川では、餌のほとんどは海と川を行き来するハゼの仲間、スマウキゴリです。春になると大量のボラの子供が遡上するのでこちらも餌になります。

フナやオイカワ、テナガエビなどがたくさんいたので戦前とは全く異なるメニューですが、カワセミはちゃんと適応して、生物多様性に乏しい都市河川でも、腹を満たし子育てしているわけです。

と、書くと、東京のカワセミはずいぶんと貧しい環境で我慢を強いられているようにも見えてしまいますが、そうでもありません。人がたくさん行き交う都市河川は、人慣れさえすれば、猛禽類などの天敵に狙われるリスクは、自然の中を流れる川沿いよりも小さいかもしれません。卵を食べてしまうヘビなどもコンクリート3面張りの川の壁の穴に到達するのは困難です。つまり都会の生活に適応できたら、ローリスクで暮らすことが可能かもしれません。

さらに東京のカワセミには「別荘」があるの

です。

東京の都市河川は流域に湧水地をたたえた緑地がいくつも並んでいます。前述の白金の自然教育園が典型ですが、東京では武蔵野台地の縁を湧水が削った小流域の谷の多くが、城や大名屋敷だったこともあり、現在も公園として保全利用され、湧水と水を混えた池が残っているのです。さらに川の源流が、緑地と湧水池というのがむしろ主流です。神田川の源流は井の頭公園、渋谷川の源流は新宿御苑、石神井川の源流は石神井公園といった具合ですね。いずれも湧水由来の大きな水辺がありカワセミが暮らしています。

東京都心に暮らすカワセミは、都市河川で外来種を食べている一方、川沿いの古い野生が生き残っている緑地の池で在来の魚やエビも摂取しています。巣穴を作る都市河川が本宅ならば、湧水のある緑地は別荘というわけですね。

しかもこうした緑地の多くは一等地にあります。このため、東京でカワセミをよく見かけるのは、麻布や目白台、小石川や松濤、原宿や南青山、白金台、飛鳥山、田園調布に成城学園など、高級住宅街の近くだったりします。

武蔵野台地を削った都市河川とその支流にあたる湧水の作った小流域地形は、カワセミにとって暮らしやすい場所であると同時に、人間が一番暮らしたい場所でもある。東京のカワセミが都心の一等地で暮らしているのは、人間とカワセミの暮らしがものすごく重なっている証拠なのです。

さて次に、小網代の森のカワセミはどんな暮らしをしているのでしょうか。



水抜き穴の巣





小網代湾のカワセミ

三浦半島小網代の森は、主に3つの谷からなる70ヘクタールの小流域の自然です。干潟が広がり、その周囲は切り立った崖と緑に囲まれています。カワセミにとっては天国のような場所です。浅い海辺には、ボラの子供をはじめ、さまざまな魚がたくさん泳いでいますし、谷を形成した小網代の川には、アユも遡上します。

小網代では毎年、主に1組のカワセミがカップルとなり子育てをしています。

冬場になるとシーボニアのヨットハーバーのあたりまで遠征して、海辺の魚を捕らえているのに遭遇することもあります。3月から4月に入るとカワセミのカップルは、干潟の上を盛んに行ったり来たりします。人が近づけない両岸の高い崖のどこかに巣穴を掘っているのだろうか、とも想像しましたが見つけれられたことはありません。

今年(2024年)の4月カワセミのカップルが、小網代の谷の河口から中央の谷と北の谷が合流するあたりまで、高い声をあげて何度も往復する様子を観察しました。川にちょうどアユが遡上する季節であり、同時に巣穴をつくるタイミングでもあります。鬱蒼と木が茂る小網代の川沿いに巣穴をつくる場所はあるのでしょうか？

そこで川沿いを観察してみました。木々が川を覆わんばかりに迫り出しているのですが、ふと気づきました。数メートルの高さの土手が数か所にあり、穴がいくつも空いていたのです。何の穴か？

小網代にたくさん生息するアカテガニの冬越しの巣穴です。

もしかすると……。アカテガニの谷でもある小網代では、カワセミはアカテガニの開けた穴を利用して、巣を作ったりしているのではないかと。都市のカワセミが河川のコンクリート壁の水抜き穴を巣穴としたように。

ちっちゃくて綺麗なカワセミはその可憐な姿と相反して、環境の変化に柔軟に適應できる、タフな鳥なのかもしれません。

小網代のカワセミの生態の謎、数年内に解き明かしてみたい、と思っています。

プロフィール

やなせ ひろいち
柳瀬 博一

NPO法人小網代野外活動調整会議理事。東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授。著書に岸由二氏との共著『奇跡の自然の守り方』ちくまプリマー新書など。



新著書籍の紹介

『カワセミ都市トーキョー 「幻の鳥」はなぜ高級住宅街で暮らすのか』
(ミドリ133号感想プレゼント書籍。詳しくはP16へ)



カワセミが都心で増えている！棲むのは東京屈指の高級住宅街。カワセミと人間の関係を「小流域思考」で解き明かす新都市論。
2024年発行

竹林の手入れと竹細工



最近、都市近郊の樹林地において竹林の管理が問題となっています。「放置竹林」や「竹害」といって、手入れ不足の竹藪が問題になる一方で、竹寺や竹庭など、管理が行き届いた竹林は整然として美しく並ぶ景観や、森林浴ができる癒やしスポットになっています。これほどまでに価値の落差が大きい竹林環境ですが、管理という手入れ次第で大きく変わります。

では、なぜ竹林は人の手入れが必要なのでしょう。これは人が利用を目的にタケを移植したことが要因の一つといえます。タケは地下茎を伸ばしてタケ(稈)を次々に地上へ伸ばして群落を作ります。野山や田畑が隣接し、こちらも半ば放置されていればタケが侵入し、勢力を拡大するほど強い生長力を持つ植物です。あわせて林内では季節が訪れるたびに新しい竹が伸びて密集し、枯れた竹は倒れも腐りもせずに折り重なり、人が簡単に入れないバリエードが築かれます。こうなると立派な筍や竹材は容易に採れなくなり、いよいよ手入れを諦めてしまうという状態になってしまいます。

もともと竹林はちょっとした手入れだけで次々と筍や竹材を生み出すため、里山における農林漁業や生活

の重要な資材供給地として人々から大切に扱われた場所だったと思われます。健全な資材を生み、手入れも行き届いた竹林環境でこそ、青々としたタケが立ち並び、思わず見とれてしまう景観が形成されるのではないのでしょうか。

このような問題を抱える竹林ですが、竹細工というクラフトワークで、竹を暮らしに活用していこうとしている団体が県内で活躍しています。その一団体として「鎌倉竹部」があります。取材したその日は、鎌倉市の極楽寺で活動しており、女性中心のメンバーで作業にあたっていました。午前中に竹林内に入り、手入れを行いつつ、素材として使う竹を伐り出します。午後からはクラフトワークで各自が作品づくりに取り組んでいました。

竹林の手入れと利用、そして制作物の販路を作るなど持続的な資源利用によって、理想的な竹林環境が保たれるのではないのでしょうか。

(財団事務局)

写真/左 : トラスト主催タケノコ掘りで竹林整備
 右上 : 放置され、バリエード化したマダケの竹林
 右下 : 鎌倉竹部の活動 (写真提供/鎌倉竹部)



身近な自然を使って絵を描こう



絵本作家の横山寛多さんは連載「虫とりの日常」や普段のお仕事でも植物の葦（ヨシ）を使ったペンを愛用しているそうです。一定ではなく味のある柔らかな筆跡が特徴的で、表現の幅が広がるそうです。

ヨシは別名アシともいわれ河川や湿地など水辺の環境を好み、その昔は葦簀よしずや茅葺屋根かやぶきの素材として扱われていました。一見ススキに見えますが、オギも含めて大型のイネ科の植物として様々な場所に自生しており、ススキ原かと思っていたけど、よく見るヨシ原だったということもあります。

地上部にまっすぐ伸びる程の胴体部分をペン先のように斜め切り、加工したものを 사용합니다。

そして絵の具は身近に生える自然由来のものとして、いくつか採取していた木の実を 使いました。

これを潰し、発色と紙の定着をよくするために日本画で使うにかわ膠を混ぜて使いました。



ヨシペン
枯れて乾燥したものを 使います

主な絵の具

エビヅル（実）紫色
まさにブドウ科の植物として名前通りの蝦（えび）色です。紫で高級な色味。



アマチャヅル（実）薄茶色
採取したては薄緑でしたが、保存すると薄茶に変色。



絵の具になる木の実



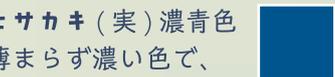
オオツヅラフジ（実）茶色



クサギ（実）薄緑色
草色とも思える淡い透き通った色。



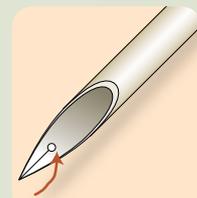
ヒサカキ（実）濃青色
薄まらず濃い色で、線を描くのに使えます。



ヨシ（葦）ペン先のつくりかた



①ヨシを斜めに切る



②ペン先に向かってスリットを入れてハート穴をつくる



③ヨシペンのできあがり

挿絵／横山寛多

イベント告知

小網代の森オープン 10 周年記念事業

「ヨシペンで絵を描こう

親子向けイベント

小網代の森で山と海のいきもの観察会」

★詳細は P13 自然観察&体験イベントにて

イベント・ボランティアの参加について、急な中止・行程変更がありますことをご承知おきください。

かながわトラストみどり財団

2024年度 2024.9/1 ~ 2025.3/31

財団エックスでも開催状況をお知らせしています。

自然観察 & 体験イベント

受付期間にお申し込みください。申込みが定員を超えた場合は抽選となります。【雨天の場合】原則として小雨天決行です。集合場所にて講師がコース変更等を判断します。【服装と持ち物】帽子、長袖、長ズボン、歩きやすい靴・筆記用具、雨具、水筒、(必要に応じて入園料、拝観料、双眼鏡等)

自然観察会

大雄山最乗寺と花咲く里山

30人 受付 7/1 ~ 7/31

9月21日土 会員 無料
9:30 ~ 15:00 一般 2,000円
学生 1,000円

※昼食(敷物)持参

【講師】NPO法人かながわ森林インストラクターの会

【集合】大雄山線大雄山駅改札前 9:30

【コース】大雄山駅→南足柄市役所前→仁王門→大雄山最乗寺(昼食)→花咲く里山散策道入口→仁王門→大雄山駅

●※健脚向けコース/杉林に囲まれた最乗寺の荘厳な佇まいと初秋の里山を楽しみましょう。



自然観察会

秋の仙石原トラスト緑地で自然観察会

30人 受付 7/1 ~ 7/31

9月28日土 会員 無料
9:00 ~ 12:30 一般 2,000円
学生 1,000円

※別途入園料必要 ※長靴必要、悪路にて汚れてもよい服装

【講師】県立生命の星・地球博物館名誉館員/勝山輝男氏、環境省箱根パークボランティア/石原和美氏

【集合】箱根湿生花園入口9:00

【コース】箱根湿生花園→トラスト緑地→箱根湿生花園

●秋の風物詩、仙石原のススキを楽しみながら、普段は入ることのできないトラスト緑地で自然観察を行います。※トラスト緑地立ち入りに関して、箱根湿生花園へのお問い合わせはご遠慮願います。



自然観察会

樹木医と歩く自然観察会

25人 受付 8/1 ~ 8/31

10月19日土 会員 無料
9:00 ~ 12:30 一般 2,000円
学生 1,000円

【講師】日本樹木医会神奈川県支部

【集合】東高根森林公園南口パークセンター前9:00

【コース】東高根森林公園南口パークセンター前から公園内を散策、解散

●樹木医と歩きながら「木のここを見る」がわかる。樹木のボディラングージで見分ける危険な木を学びます。



歴史見学

東海道神奈川宿を歩く

30人 受付 8/1 ~ 8/31

10月22日火 会員 無料
9:00 ~ 12:00 一般 2,000円
学生 1,000円

【講師】NPO法人東海道ウォークガイドの会

【集合】京急線神奈川新町駅中央口改札前 9:00

【コース】神奈川新町駅→旧東海道江戸方見付跡→良泉寺→熊野神社→神奈川地区センター→成仏寺→慶運寺→宗興寺→洲崎大神→本覚寺→大綱金刀比羅神社→台町茶屋→神奈川台関門跡→沢渡公園→横浜駅 ●東海道を「歩いて、学んで、感じるウォーキング」を一緒に堪能しましょう。



ワークショップ

伝統工芸に学ぶ竹細工講座&ワークショップ

20人 受付 9/1 ~ 9/30



11月23日土 会員 1,000円
10:00 ~ 15:00 一般 3,000円
※前号告知から日程を変更しました 学生 2,000円

※材料費込、別途入庵料必要。

※昼食、エプロン、雑巾あれば

道具類持参(昼食休憩あり)

【場所】鳴立庵(神奈川県中郡大磯町大磯1289)

【講師】重要無形文化財(竹工芸)保持者 藤塚星星

●竹材を活用する伝統工芸から学ぶ講座及びワークショップです。竹細工は竹を割り、ヒゴを取り、編み作業等を一人でを行い作品を仕上げます。その中でも仕上げを左右する持ち手の付け方や縁巻き方法について、人間国宝である藤塚星星氏指導のもと実技による講座を行います。

左:六つ目袋編み付菓子器 右:二重六つ目編花籠

※経験者コース、四つ目編等経験されたことがある方

自然観察会

鎌倉中央公園・台峯緑地から北鎌倉裏路地探訪

30人 受付 9/1 ~ 9/30

11月22日金 会員 無料
9:30 ~ 15:00 一般 2,000円
学生 1,000円

※昼食(敷物)持参

【講師】NPO法人全国森林インストラクター神奈川会

【集合】湘南モノレール湘南町屋駅改札前 9:30

【コース】湘南町屋駅→鎌倉中央公園→台峯緑地(昼食)→台の小路→北鎌倉裏路地→JR線北鎌倉駅

●※健脚向けコース/鎌倉三大緑地の一つである台峯緑地から台の小路・北鎌倉の裏路地の風情を味わいます。



歴史見学

古都鎌倉 秋の緑と歴史探訪

10人 受付 9/1 ~ 9/30

11月27日水 会員 無料
9:30 ~ 12:30 一般 500円

※別途拝観料必要

【講師】元鎌倉女子大学教授/八幡義信氏

【共催】(公財)鎌倉風致保存会

【集合】円覚寺総門前 9:30

【コース】円覚寺総門前集合(山門、国宝洪鐘、仏殿等)、解散

●中世鎌倉における純粹禅の伝来について学びます。



自然観察会

江の島の歴史散策と自然を楽しむ

30人 受付 10/1 ~ 10/31

12月5日(日) 会員 無料
9:30~13:00 一般 2,000円
学生 1,000円

【講師】江の島・藤沢ガイドクラブ

【集合】小田急線片瀬江ノ島駅改札前9:30

【コース】片瀬江ノ島駅→弁天橋→モース博士説明→聖天島→南磯→漁師道→青銅の鳥居→辺津宮→中津宮→コッキング苑→奥津宮(裏道)→青銅の鳥居(一旦解散)→片瀬江ノ島駅

●みどり豊かな江の島で歴史散策と自然(植物、地層、景観等)を楽しみましょう。

※岩屋及び展望灯台への入場はありません。



体験会

シイタケ原木のお土産つき ナラ枯れ処理体験会

各20人 受付 12/1 ~ 12/31

2025年 会員 無料
2月8日・12日(日) 一般 2,000円
9:30~12:30 学生 1,000円

【集合】小田急線桜ヶ丘駅改札前9:30
※原木(長さ60cm程度)は1年以上前に処理したものを提供します。
※軍手・大きな袋持参

【コース】桜ヶ丘駅→久田緑地→桜ヶ丘駅

●コナラなどの樹木が枯れる「ナラ枯れ」被害について学び、その処理方法の一つであるシイタケの駒菌打ちや薪割り体験を行います。



野鳥観察会

青い鳥を探しに行こう〜林の野鳥観察〜

20人 受付 11/1 ~ 11/30

2025年 会員 無料
1月18日(土) 一般 2,000円
9:00~12:30 学生 1,000円

※双眼鏡持参 ※鎌倉広町緑地で一時解散、希望者は引き続き野鳥観察可。その場合は昼食持参推奨

【講師】NPO法人藤沢サンクチュアリー 高橋和也氏

【集合】湘南モノレール西鎌倉駅改札前9:00

【コース】西鎌倉駅→鎌倉広町緑地→西鎌倉駅

●鎌倉三大緑地の一つである、広町緑地にルリビタキを探しにいきませんか。



自然観察会

早春の草花を楽しむ尾根歩き 弘法山

30人 受付 1/1 ~ 1/31

2025年 会員 無料
3月8日(土) 一般 2,000円
9:30~15:00 学生 1,000円

※昼食(動物)持参

【講師】NPO法人かながわ森林インストラクターの会

【集合】小田急線秦野駅改札前9:30

【コース】秦野駅→弘法山入口→弘法山山頂(昼食)→鶴巻温泉駅

●※健脚向けコース 早春の草花を観察する尾根歩きです。春の息吹きを楽しみましょう。



小網代の森オープン10周年記念事業



ヨシペンで絵を描こう!

親子向け
イベント

〜小網代の森で、山と海のいきもの観察会〜

20人 受付 7/1 ~ 8/10

2024年 会員 無料 ※別途バス乗車料、
9月16日(月祝) 一般 2,000円 昼食は持参、または
9:50~14:30 学生 1,000円 店舗利用できます。

【講師】絵本作家/横山寛多氏、

NPO法人小網代野外活動調整会議 江良弘光氏

【集合】京急線三崎口駅改札前9:50

または三浦市民交流拠点駐車場(引橋からバス乗車)も可

【コース】三崎口駅→(バス)→シーボニア入口→小網代湾→えのきテラス→中央の谷→引橋(昼食休憩)→小網代インフォメーションセンター(絵描き会場)→(現地にて解散)

【内容】森から干潟、海へ繋がる小網代の森でガイドとともに昆虫やカニを探します。

後半は生きものを観察しながら自然素材を使ったヨシ(葦)ペンと絵の具を作り、絵を描いてみましょう。



挿絵/横山寛多

申込方法

【申込先】(公財)かながわトラストみどり財団みどり企画課 〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20/FAX : 045-412-2300/Eメール: midori@ktm.or.jp/ WEBサイト : www.ktm.or.jp 【申込方法】イベント内容をご確認の上、●参加を希望するイベント名、●参加希望者全員の氏名・住所・電話番号、●会員の方は会員番号、または一般・学生(年齢)を明記して、FAX・Eメール・ハガキ・財団WEBサイトにてお申し込みください。【雨天の場合】原則として小雨決行です。集合場所にて講師がコース変更等を判断します。【お願い】集合時間になりましたら出発します。遅れないようご注意ください。※コース内のバス代は各自負担となります。※定員を超える申し込みがあった場合は抽選となります。

2024年度 (2024.9/11～2024.11/23) 森林ボランティア

活動に参加しよう！

【共通事項】 ●この活動は、次の企業・団体に協力いただいています。厚木ヤクルト販売(株)、神奈川柑橘果工(株)、箱根高原ホテル、森を育てる紙製飲料容器普及協議会(もりかみ協議会) ●神奈川県森林インストラクターが指導します。 ●「マーク」は緑の募金保全活動です。 ●現地に駐車場はありません。ただし「マーク」のあるイベントのみ、車でお願いいたします。「マーク」のあるイベントは、活動地まで30分程度徒歩で移動します。 ●雨天や現場不良等の場合、中止や延期する場合があります。

仙石原
箱根町 箱根小塚山緑地
100人(先着順) 受付 7/1～
除伐 9月11日(水)
予備日:9/12(木)
【集合】小田原駅西口 8:30
※専用バスで移動
※自家用車駐車場はありません
【協力】箱根高原ホテル
【行程】小田原駅(専用バスで移動)⇒現地⇒箱根高原ホテル⇒小田原駅
◆昼食後温泉入浴



緑区 小原
相模原市 市有林
100人(先着順) 受付 9/1～
植栽 11月23日(土)
予備日:11/24(日)
【集合】橋本駅南口 8:30
※専用バスで移動 ※自家用車駐車場はありません
【共催】相模原市
／(公財)相模原市まち・みどり公社
【行程】橋本駅(専用バスで移動・徒歩40分)⇒現地⇒橋本駅
◆緑の募金保全活動



畑宿
箱根町 県有林
100人(先着順) 受付 7/1～
間伐 9月22日(日)
予備日:9/23(月)
【集合】小田原駅西口 8:30
※専用バスで移動
※自家用車駐車場はありません
【協力】箱根高原ホテル
【行程】小田原駅(専用バスで移動)⇒現地⇒箱根高原ホテル⇒小田原駅
◆昼食後温泉入浴



岩
真鶴町 真鶴町県行造林
100人(先着順) 受付 8/1～
間伐 10月5日(土)
予備日:なし
【集合】小田原駅西口 8:30
／星が山公園さつきの郷駐車場 9:30
※専用バスで移動
※自家用車駐車場があります
【行程】小田原駅(専用バスで移動)⇒現地⇒小田原駅



畑宿
箱根町 県有林
100人(先着順) 受付 8/1～
間伐 10月13日(日)
予備日:10/14(月)
【集合】小田原駅西口 8:30
※専用バスで移動
※自家用車駐車場はありません
【協力】箱根高原ホテル
【行程】小田原駅(専用バスで移動)⇒現地⇒箱根高原ホテル⇒小田原駅
◆昼食後温泉入浴



岩
真鶴町 真鶴町県行造林
100人(先着順) 受付 8/1～
間伐 10月27日(日)
予備日:なし
【集合】小田原駅西口 8:30
／星が山公園さつきの郷駐車場 9:30
※専用バスで移動
※自家用車駐車場があります
【行程】小田原駅(専用バスで移動)⇒現地⇒小田原駅



仙石原
箱根町 町有林
100人(先着順) 受付 9/1～
植栽 11月13日(水)
予備日:11/14(木)
【集合】小田原駅西口 8:30
／箱根町仙石原浄水センター駐車場 9:30
※専用バスで移動 ※自家用車駐車場があります
【共催】箱根町 【協力】箱根高原ホテル
【行程】小田原駅(専用バスで移動・徒歩1時間)⇒現地⇒箱根高原ホテル⇒小田原駅 ◆昼食後温泉入浴



森林ボランティア 申込方法

【申込先】
(公財)かながわトラストみどり財団みどり森林課
〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20
TEL: 045-412-2255 FAX: 045-412-2300
Eメール: midori@ktm.or.jp
WEBサイト: www.ktm.or.jp

【申込方法】
申込は活動内容をご確認の上、●参加希望日●参加希望者全員の氏名(ふりがな)・住所・電話番号●森林整備活動登録番号(ボランティア番号)をお持ちの方は登録番号を明記して、ハガキ・電話・FAX・Eメール・財団WEBサイトにてお申し込みください。
【雨天や現場不良等の場合】
予備日のある場合は延期、ない場合は中止。
【実施の可否の確認方法】
実施日前日の18時以降に、財団WEBサイト、当財団の録音テープ(045-412-2255)でご確認ください。
【活動内容】
服装や今までの実施状況をWEBサイトに掲載しております。

かながわジュニア・フォレスター教室 2024

参加者募集! 第2回「森で遊ぼう」

茅ヶ崎市の県立茅ヶ崎里山公園で、竹の伐倒、竹材による調理・クラフトなど子供向けの体験イベントを開催します。いろいろな年齢の子供たちとグループワークを通じて絆を深め、自然の中で遊び、自然に親しむ活動です。

【日時】令和6年10月20日(日) 9時～15時30分
【場所】県立茅ヶ崎里山公園
【集合】県立茅ヶ崎里山公園 パークセンター前
【対象】小学2年生から高校2年生
【参加費】500円
【申込期間】令和6年8月20日(火)～9月27日(金)
【申込方法】イベント名、代表連絡先(保護者)氏名・住所・電話番号・参加人数・参加者全員の氏名(ふりがな)・性別・生年月日(年齢・学年)を明記して、ハガキ・FAX・Eメール・財団WEBサイトにてお申し込みください。
詳細は財団事務局 ☎045-412-2255(みどり森林課)



「2024 かながわ緑の大使」の活動

緑の大使の西村亮祐さんが、久田緑地で行われた「タケノコ掘りで竹林整備2024」に同行し、参加者にむけて大使の活動報告や募金活動を行いました。

タケノコ掘りにも初挑戦し、「1つ掘り出すのにも苦労しましたが、楽しかったです。」と感想をいただくなど、当体験会を通して竹林整備に貢献してくれました。



緑化運動・育樹運動標語コンクール 一般の部作品募集中

樹木を植える大切さや人と緑の関わりをテーマにした標語を募集します。

応募資格は神奈川県在住・在勤者で応募点数は1人1点。標語と氏名・職業・住所・電話番号を明記の上、はがきで 〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20 神奈川県横浜西合同庁舎内(公財)かながわトラストみどり財団緑化コンクール係)にご郵送ください。2024年9月10日(火)必着です。



公益目的事業への寄附感謝状贈呈式

一般財団法人YAMANAKA未来財団より、かながわのナショナル・トラスト運動の主旨に賛同いただき、ご寄附いただきました。



令和6年1月16日(火)
一般財団法人YAMANAKA未来財団 様
右:山中昌一理事長 左:トラスト財団新井専務理事



ヤマユリの自生地再生をめざして

2024年、今年も進和学園さんのヤマユリが大輪を咲かせたと報告をいただきました。

かなユリ・チャレンジ植栽地として活動を継続しています。2017年から活動を行い7年目に入りました。



見事に咲いたヤマユリの花
しんわろネットサンス中庭
2024年6月17日



身近な自然を使ってほうきを作ろう

シュロはヤシ科なので南国風情を感じるかもしれませんが、鳥が実を運び、暗がりの森でも強靱に育つため、現代の繁茂した森の各所で見かけます。

都市林には特に多く、林縁部では日の光をたくさん浴びて、葉を熊手みたいに大きく広げて生長も早いため、枝葉を切り落とすのですが、かさばって扱いが大変です。これを使って編み込みしたカゴ作りもありますが、時間と技術が必要です。そこで手軽にできるシュロほうき、ならぬ“シュロ葉ほうき”を考案しました。このワークショップを京急百貨店環境フェアにて出展します。ぜひお越しください。



京急百貨店上大岡フェスティバル2024 夏休みSDGsフェアに出展します。 「シュロ葉でつくる魔女ほうき」

2024年8月3日(土) ~ 8月4日(日)
各日午前11時~午後3時 京急百貨店7階催事場
参加費:募金300円以上

会員特典

なお、トラスト会員として参加いただくと、自宅で作るシュロ葉5枚セットをお土産としてプレゼントします。必ず会員証をお持ちください。

トラスト考案

シュロ葉ほうき
~暗がりの森に生える植物~

シュロ葉3枚を束ねてほうきを作ります。手軽で簡単に作れて、玄関先やカーペット、卓上などで使えます。ご自宅で葉を好きな長さにかuttingして、より使いやすくカスタマイズしてみてください。



シュロ葉ほうき

新規優待施設の紹介

会員証の提示で
オトクにいろいろ

毎年発行される「会員証」のご提示で割引などの優待を受けることができます。
このたび、新たな2施設が協力いただけることになりました。



三浦市

NEW

miura pizza paradiso
(ミウラピザ パラディソ)

【お店からのコメント】
パラダイス酵母を使った生地に自家栽培や協力農家さんの地元の野菜や食材を使って一枚一枚愛情込めて焼いております。



会員証提示で

コーヒー1杯無料

三浦市三崎町小網代417
☎046-874-9198
【営業時間】11時～15時
17時～21時
【定休日】火・水曜日



三浦市

NEW

mito café (ミトカフェ)

【お店からのコメント】
京急三崎口駅前丸石自動車の中で営業中！
こだわり抜いたコーヒーとふわふわ食感が自慢の米粉100%スフレパンケーキのお店です！



飲食利用時に会員証提示で

ミニソフトクリームプレゼント!

三浦市初声町三戸317-2
☎050-8885-2850
【営業時間】9時～17時
【定休日】火曜日

感想を送ってプレゼント



お便りをいただいた方の中から
抽選で2名様にプレゼントします。

柳瀬博一氏 新著！
「カワセミ都市 トーキョー」

書籍の紹介

カワセミが都心で増えている！棲むのは東京屈指の高級住宅街。カワセミと人間の関係を「小流域思考」で解き明かす新都市論。平凡社新書 2024年発行

応募方法：①〒と住所／②連絡先(電話やメール)／③氏名／④あれば会員番号／⑤機関誌「ミドリ」アンケート、イベントや財団活動への感想やご意見など①～⑤を明記し、メールやハガキにてお送りください。

当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

機関誌ミドリ133号アンケート

- Q 1. 興味関心を持った誌面を教えてください。
- Q 2. 1を選んだ理由。
- Q 3. 小網代の森の思い出を聞かせてください(任意)。
- Q 4. そのほか、感想や取り上げてほしい話題など。

公益財団法人

かながわトラストみどり財団 理事長交代のお知らせ

このたび、令和6年6月24日の理事会にて当財団の理事長が交代し、引地理事が新たに理事長として就任しました。

- 新理事長
引地 孝一(ひきち たかいち)
- 退任理事長
川本 守彦(かわもと もりひこ)

引地理事長はこれまで当財団監事として財団運営に取り組み続けてきました。

川本前理事長は、平成24年4月の就任以来、12年間にわたってご尽力いただきました。

新たに引地理事長のもと、かながわナショナル・トラスト運動を推進していきますので、引き続き変わらぬご支援ご協力をお願いします。

編集

後記

「つきつめる」

「身近な自然を使って絵を描こう」の始まりは、まさしく横山先生のヨシペンからです。そこから絵の具に使えそうなものを試し始め、気が付けば色ハンター。様々な木の実を潰し

ては紙に刷り込み、まさに色々に集まりました。そして次なる素材は絵の具に混ぜて色を定着させる“膠(にかわ)”動物性由来の有機物をぐつぐつ煮込みますが、どこまでつきつめるかは悩みどころです。(豊崎)

小網代の森の 保全活動のために ご支援ください

神奈川県三浦市にある小網代の森は、アカテガニやホタルなど多くの生きものたちが生息する自然豊かな森です。

NPO法人 小網代野外活動調整会議の活動



アカテガニ



ゲンジボタル



森を流れる「浦の川」の源流は引橋入口付近にあります。この川に沿って木道を進むと源流域を含む森林、河川、干潟が人工物で遮られずに繋がっており、この連なった流域生態系は首都圏では唯一であるといわれるほか、約1.3kmの間にアスカイノデのシダ群落やハンノキの溪畔林、オギやアシ原の湿原など、様々な自然景観を楽しむことができます。この多様な環境には約2千種の動植物が生息しているといわれ、次の世代に引き継ぐべき貴重な森です。

この多様な自然環境は2014年の一般開放が始まって以降、植生管理や湿原回復など様々な手法による活動によって生み出され、保全が進められています。この良好な自然を維持管理するために、より多くの皆さまからの支援を必要としています。

同封の振込用紙の 取扱いについて

- ①本用紙は「キャンペーン用振込用紙」です。会員会費や緑のグッズ募金の振込には使用しないでください。
 - ②振込の内訳に記載がない場合は、財団事業への寄附とさせていただきます。
 - ③領収書等礼状の不要、ミドリ等の掲載不要(匿名希望)の方は通信欄に口をお願いします。
- (公財)かながわトラストみどり財団への寄附金は、所得税・法人税の控除が受けられます。

所得税・住民税の 優遇措置について

(公財)かながわトラストみどり財団への会費や寄附は確定申告をすることによって、所得税、住民税の還付を受けることができます。ただし、県民税や市町村民税の控除は各自治体によって異なります。なお、控除額の計算は①②いずれかを選択することができます。

①税額控除(所得税)

① 所得税の減少分

(年間の公益法人等への寄附金総額 - 2,000円) × 40%

② 住民税の減少分

県民税 (年間の公益法人等への寄附金総額 - 2,000円) × 2%

(②の例)：横浜市税

(年間の公益法人等への寄附金総額 - 2,000円) × 8%

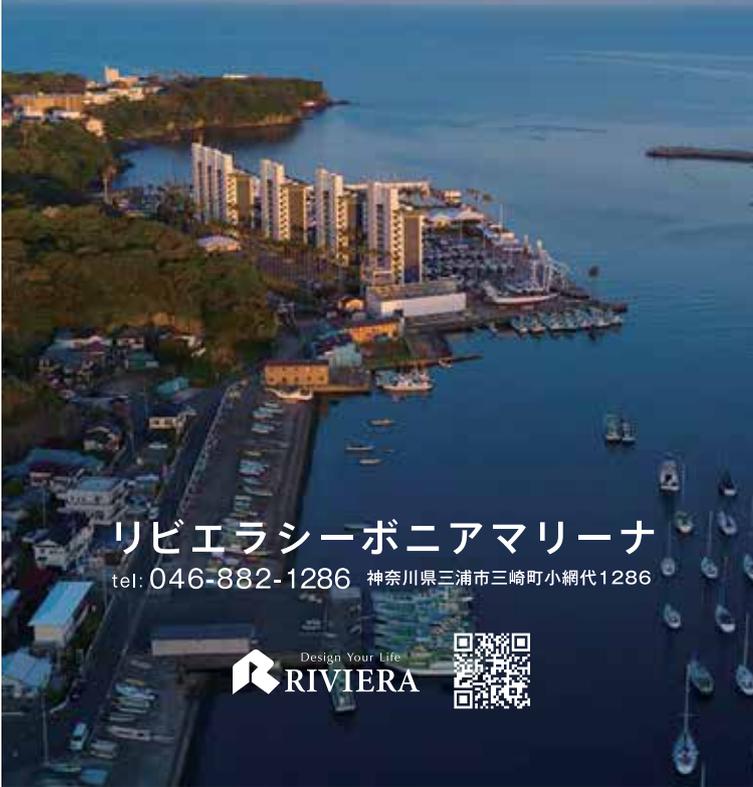
②所得控除

(年間の公益法人等への寄附金総額 - 2,000円)の金額を、その年分の所得から控除するもの。

相続税の非課税

相続された方が相続財産を、相続税の申告期限(亡くなってから10か月)までに寄附された場合は、その寄附額は相続税が非課税となります。

真に豊かな三浦の海を願い
三浦ブルーカーボンベルトを目指して
2022年からリビエラシーボニアマリーナでも
藻場再生に取り組んでいます。



リビエラシーボニアマリーナ

tel: 046-882-1286 神奈川県三浦市三崎町小網代1286



スペースキーポイント

近未来デザインでグランピング体験を！



SPACE KEY POINT
RIVIERA SEABORNIA MARINA



tel:
046-884-1006
ご予約はHPから→



紙の使用を 減らしませんか？

紙マニフェスト → シゲンクラウド

🕒 紙の使用・作業時間

約 **90%** 削減



紙マニフェスト

シゲンクラウド

※自社調べ



産業廃棄物管理システム (排出事業者専用)

シゲンクラウド

検索

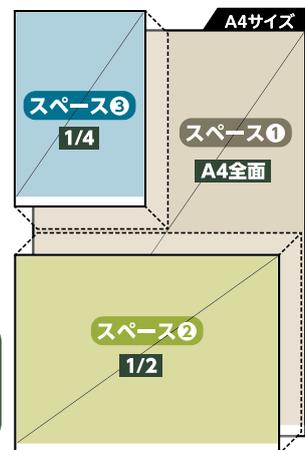
MAIL : info@shigencloud.co.jp TEL : 045-222-0888 (専用)

URL : https://shigencloud.jp

法人・団体会員様を 紹介いたします！

法人団体会員など財団事業をご支援いただいている企業・団体様の広告を募集しています。日頃の社会活動をPRする機会としてご利用ください。掲載料は機関誌「ミドリ」の制作費の一部として使用します。

年4回をまとめる場合は、
3回分の掲載料で
お受けしております



規格 及び 掲載料

規格	サイズ (幅×高さ)	掲載料
スペース①	全面広告 (180W×270H)	80,000円
スペース②	1/2広告 (180W×130H)	40,000円
スペース③	1/4広告 (88W×128H)	20,000円

FSC®森林認証紙、ノンVOCインキ(石油系溶剤0%)を使用し、再生可能エネルギー100%で印刷しています。

